

メディカルイノベーションセンター棟 完成祝い盛大に式典



あいさつする松本総長



式辞を述べる湊医学研究科長

京都大学医学研究科では、7月29日に「メディカルイノベーションセンター」の完成を記念して、竣工披露式、記念式典及び祝賀会を開催しました。

産学連携 創薬の拠点

メディカルイノベーションセンター（MIC）は、平成22年の設立以来、大学の基礎・臨床医学研究で得られる情報・リソースと企業の最先端創薬技術を結集して革新的医薬品の創出を目指し研究を進めています。今回完成したMIC棟は、創薬産学連携の拠点として経済産業省の補助金で建設されました。MIC棟は、地下1階、地上5階の施設で、フロアごとに別々の企業との産学連携プロジェクトが活動しています。現在、武田薬品工業とは肥満症・統合失調症、大日本住友製薬とはがん、田辺三菱製薬とは慢性腎臓病、塩野義製薬とはアルツハイマー病



テープカットする（左から）成宮センター長、小寺理事、加賀田三菱製薬株式会社代表取締役専務執行役員、丸山武田薬品工業株式会社コーポレート・オフィサー医薬研究本部長、門川京都市長、片瀬経済産業省産業技術環境局長、松本総長、山下京都府副知事、手代木日本製薬工業協会会長、塩野義製薬株式会社代表取締役社長、野口大日本住友製薬株式会社代表取締役副社長執行役員、三嶋理事、湊医学研究科長



完成したメディカルイノベーションセンター棟外観

や精神疾患の新薬開発に向けプロジェクトを進めています。

MIC棟正面玄関前で、行われた披露式には、学内外約170人の関係者が出席し、松本京都大学総長、片瀬経済産業省産業技術環境局長、山下京都府副知事、門川京都市長、手代木日本製薬工業協会会長、塩野義製薬株式会社代表取締役社長、丸山武田薬品工業株式会社コーポレート・オフィサー医薬研究本部長、野口大日本住友製薬株式会社代表取締役副社長執行役員、加賀田三菱製薬株式会社代表取締役専務執行役員、三嶋京都大学理事、小寺京都大学理事、湊京都大学医学研究科長、成宮メディカルイノベーションセンター長の12人がテープカットを行い完成を祝いました。その後、成宮センター長、寺西副センター長らが施設内を案内しました。



施設内を案内する成宮センター長（右端）

由緒ある旧解剖講堂を復元



旧解剖講堂の外観



元のに復元された旧解剖講堂の内部

これに引き続き、芝蘭会館にて竣工記念式典が行われました。記念式典では、湊医学研究科長が式辞、松本総長のあいさつに続いて、片瀬経済産業省産業技術環境局長、門川京都市長、手代木日本製薬工業協会会長、塩野義製薬株式会社代表取締役社長、丸山武田薬品工業株式会社コーポレート・オフィサー医薬研究本部長より祝辞をいただきました。

湊医学研究科長は、MIC棟の建設のご支援とご協力に感謝を述べるとともに「有効な治療薬の無い病気に、わが国発の革新的医薬品を創成するとともに、人材養成にも大きく貢献できるものと確信しており、MIC棟の完成で革新的新薬の開発が一段と加速するものと存じます」と、今後MIC棟で行われる活動に対して大きな期待を込めた式辞を述べられました。

その後行われた祝賀会では、成宮センター長、小寺理事、野口大日本住友製薬株式会社代表取締役副社長執行役員、加賀田三菱製薬株式会社代表取締役専務執行役員からあいさつをいただき、高島近畿経済産業局地域経済部長より乾杯のご発声をお願いしました。参加者は和やかに歓談を楽しまれ、寺西副センター長の謝辞をもって、盛況のうちに閉会しました。

内覧会開催 耐震性備える

このたび、本研究科・医学部では、老朽化のため近年使われていなかった、由緒ある旧解剖講堂を併設した記念講堂と

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成25年8月30日(金)現在

・「三井住友銀行」利用のご寄附

278人(法人を含む)

51,380,000円

うち、50万円以上のご寄附は50人

(法人を含む)

・「ゆうちょ銀行」利用のご寄附209人

4,957,000円

うち、50万円以上のご寄附は2人

計487人(法人を含む)

56,337,000円

してよみがえらせるべき復元工事を進めておりましたが、無事に講堂部分が完成したことから、平



講演する萩原教授



あいさつする湊医学部長

「京都大学記念講堂(旧解剖学講堂)」明治35年に京都帝国大学の解剖学教室講堂として竣工された木造平屋建ての建物で、本学で現存する最も古い木造建築物です。近年は老朽化のため使用されていなかった旧解剖学講堂を、寄附金を募って記念講堂・歴史資料館として再生する運びとなりました。

成25年6月1日に内覧会を開催いたしました。当日は、湊医学部長をはじめ、現役教授、寄附者など、約60人が出席し盛況のうちに終了いたしました。また、「記念講堂・歴史資料館」として完成予定の来春には、竣工式典を予定しております。皆様の温かいご支援に心より御礼申し上げます。

退任あいさつ

京都大学内科学第二講座の七代目の教授に就任しましたのは1992年12月1日のことでした。20年4カ月の教授就任期間を経て、2013年3月31日、内科学講座内分泌代謝内科教授を退任しました。

退任に際し、京都大学医学部芝蘭会の皆さまに、京都大学内科学第二講座の「Legacy」と、今後の臨床の知の創造と実践へのEverlasting Challengeについて語ること御礼の言葉とさせていただきます。

120年間の京都大学内科学第二講座(教室)の歴史と伝統

1899年、初代教授に中西亀太郎先生が就任されました。中西教授はドイツ医学を日本に伝え、ベルツ教授の弟子の一人で、感染症学を専門とされました。二代目の松尾巖教授は消化器病学、三代目の菊池武彦教授は血液学、四代目の三宅儀教授は日本内分泌学会を創設された辻寛治教授のご指導の下で内分泌代謝学を専門とされ、五代目の深瀬政市教授は臨床免疫学を専門にされ、そして1976年、恩師の井村裕夫先生が六代目の教授に就任されました。井村先生は内分泌代謝学を専門とされました。1988年に井村先生と共にベルツ賞が受賞できたことは、後継者の一人として、大変うれしい思い出です。

このような内科学第二講座の歴史と伝統は、最

高指導者の専門領域を変化させることによって、私が臨床医学研究を

始めたころは、「基礎研究の成果を臨床応用を目指して橋渡しをする科学」トランスレーショナルサイエンス(Translational Science)の概念が提唱される前の1980年代代でしたが、1991年にはANPの測定法(塩野義)、1995年は急性心不全治療薬としてのヒトANPの実用化を達成(第一三共)、1996年には心不全診断法としてのBNP測定法(塩野義)が承認され、日常診療に無くてはならない検査法になっていきます。また、脳から発見されたCNPについて、血管内皮細胞

そして、EBM研究センターではハイスループットな患者を対象とする「CASE-J研究」を完了させ、日本人を対象にわが国最初の大規模臨床試験を完成させることができました。

その内科学の中での内分泌代謝内科の使命は、臓器に基盤を置く他領域と異なり、複数臓器を必須の構成臓器とすることであり、全身を基盤とすることです。全身の臓器が内分泌代謝機能に与かることが明らかに

なった今日、多様な疾患を対象とし、全身の把握が必須であり、かつ横断的、学際的使命を有しています。希薄化しがちな内科学の専門領域を束ねる鑓の役割が期待されているのです。

万事に光と影があります。継続した立志の追求・追求と時宜を得た退任の決断は大切で

す。「臨床の知」の創造と実践のEverlasting Challengeを座右銘(Motto)にしてみました。が、Everlasting Challengeは「絶えること無き挑戦」より「できる限りの継続する努力」を意味しています。

Everlasting Challenge 座右の銘に

内科学講座内分泌代謝内科教授

中尾 一和



からも分泌されること、さらには骨の成長板軟骨では内軟骨性骨化促進すること明らかにしました。この骨伸張作用を利用して軟骨無形成症の治療薬の開発を目指しています(中外製薬)。

また、レプチンの研究は、肥満症・メタボリックシンドロームの激増を背景に、重要な研究課題として取り組んできました。そして2013年3月25日に、脂肪萎縮症を対象とするレプチン補充治療法が世界で初めて承認されました(塩野義)。また、オムロンヘルスケアと共同開発したデュアルスキャンは、被爆なしに腹腔内脂肪面積(内臓脂肪面積)を測定する医療器械で2011年、実用化に成功しました。

京都大学内科学講座と京都大学内科学講座内分泌代謝内科の使命と挑戦

「内科学の使命と挑戦」は、第109回日本内科学会(京都・会頭中尾一和)のテーマにしました。

今後は、このような経験と立志を基盤として「臨床の知」の創造と実践のEverlasting Challengeと次世代臨床研究者の育成に努めた

と、ありがとうございます。

本年6月2日付で、医学研究科医学統計生物情報学/臨床研究総合センターデータサイエンス部教授を拝命いたしましたので芝蘭会会員の皆さまにごあいさつ申し上げます。

わたし自身、はじめて医師主導臨床試験の支援業務に携わったのは、京都大学EBM研究センターの支援講座に所属していたときでした。データマネジャーの皆さんと一緒にデータセンターの現場実務を担当いたしました。医学統計の専門家としましては、これまで多くの医師主導臨床試験に参画させていただきました。がん領域ならびに、循環器疾患、糖尿病、腎臓疾患、小児疾患をはじめさまざまな領域の臨床試験

総合的なデータベース構築へ

医学研究科医学統計生物情報学/臨床研究総合センターデータサイエンス部教授

森田 智視



臨床試験に積極的に参画していきたいという自分自身の大きなモチベーションになっております。

これまでの新規治療法の開発は、臨床試験を一つ、step-by-stepで実施していくことでエビデンスを積み上げながら行

多目的・多角的な情報分析を行い、新治療開発のためのシミュレーション研

新任あいさつ

平成25年8月1日付で、医学部附属病院医療情報企画部の教授を拝命いたしましたので、芝蘭会会員の皆さまにごあいさつ申し上げます。

私は、平成2年に本学工学部情報工学科に入学いたしました。在学中は計算機システム講座(富田眞治教授・現物質・細胞統合システム拠点特定拠点教授)にて研究の手

座で次々と発生する「イベント」の中で鍛えられた現場対応力は、後の情報システム運営の大きな支えとなっております。

平成13年2月には、フインランドのオウル大学理学部情報処理科学科に客員教授として赴任し、

情報化時代の医療の姿を描き出す

医学部附属病院医療情報企画部教授

黒田 知宏



Petri Pulli教授と共に次世代携帯電話UIの研究を行いました。この滞在中、遠隔医療研究のご縁で当時の高橋隆医療情報部長(現名誉教授)にお招きをいただき、同年10月医療情報部講師に就任いたしました。京大病院では、さまざまな医療情報学研究を推進すると共に、病院情報と病院運

り、情報支援無しでの診療業務遂行はもはや不可能です。加えて、インターネットの発達は情報の流通を容易にし、病病・病診連携や在宅介護・在宅管理の可能性を開く

があるからその業務形態を生み出していくためには、情報技術、臨床プロセス、臨床制度、臨床研究などの全てを変えていく必要があります。私

を可能にするような“仕組み”を本学医学部の先生方に提供することを目指していきたいと考えております。もちろん、わたくし一人あるいはデータサイエンス部だけでなしえるものでは到底ありません。実際に医学研究を計画・実施される先生方からのご指導、附属病院の他部門との協同作業の上でようやく実現できる可能性がでてくるくらい

のものと考えております。これからの仕事人生最終ラウンドをこれらのミッションを達成できるよう精一杯努力邁進していきたいと考えております。

皆さま方のご指導・鞭撻のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

第29回日本医学学会総会 2015 関西

京都中心、関西全体で

24年ぶり開催



会 頭
井村 裕夫
(京大名誉教授)

2015年4月11～13日、「第29回日本医学学会総会2015 関西」を、京都を中心としてオール関西で開催することになった。

2015年4月11～13日は、京都での開催は24年ぶりのことであります。今回の総会では従来とは異なる試みを導入しま

した。その一つは関西全体で開催することとした点であります。現在自治体も関西広域連合を形成していますし、国際戦略

特区も京阪神で指定されています。関西はもとと生命科学研究の盛んなところであり、その中で協力して医療イノベーション

を推進することが必要と考えたからであります。一般向け展示は神戸で開催し、その他の企画も検討しています。

第二に我が国では急速に少子高齢化が進み、医学・医療とも一つの転換期を迎えています。したがって個々の学会では十分討論できない横断的なテーマを取り上げ、医学の未来を展望できる会議としたいと考えました。

第三に医学学会総会は医師、看護師、病院薬剤師などの医療関係者が集う会ではありますが、将来の医療、特に疾患予防を考えると、そのような機会を設けたいと考えています。また若い力の参加も必須であると考え、すでに「医療チーム学生フォーラム」を発足させて討議を始めてもらっています。

また、総会では学生代表が新鮮な発表をしてくれ、医学学会総会では4年に1回開催されるオリンピックにも似た大きな医学の祭典であり、医学の現状と課題を一般の人びとにも理解してもらう機会でもあります。準備はほぼ順調に進んでいます。多くのの方に参加していただくことを期待しています。この機会に芝蘭会総会を京都で開催していただくことを願っています。

とが決定したと湊会長より伺い、大変うれしく思っています。ぜひ多くの芝蘭会会員の皆さまが医学学会総会に参加され、学問の進歩と京都の行く春を楽しんでいただきたいと願っています。

議案(4)については、第29回日本医学学会総会(2015)への参加について、芝蘭会臨時総会開催のための具体的案を作成し、継続的に審議することと承認された。議案(5)については、平成25年度一般会計収支予算書の改訂について説明があり、審議の後、承認された。

議案(6)については、2件あり、1件目は、医学部記念講堂・歴史資料館の募金状況並びに平成25年6月1日に行われた

真鍋克次郎氏が本総会の日をもって任期満了となるため、同人を理事に再任することが承認された。評議員については、端和夫氏、平田温氏、久藤豊治氏、草間昌三氏、島本光臣氏、余語郁夫氏、富本秀和氏、折田雄一氏、加藤静允氏、松村忠史氏、吉田耕造氏、松山榮一氏、高三秀成氏、中川正久氏、門田和紀氏、森惟明氏、福井清氏、高橋晴雄氏、泰江弘文氏、岩田博夫氏の再任が承認された。また、理事会において、総会において理事に再任された西 祥太郎氏を副会長に再任することが承認された。

議案(3)については、副会長、理事及び常務理事の選任方法について、(4) 第29回医学学会総会(2015)への参加について、(5) 平成25年度一般会計収支予算書の改訂について、(6) その他についての6件で、議案(1)については、医学教育活動等への助成や学生の海外研修等への助成について、活発な議論の上、原案どおり承認された。

議案(2)については、理事の西 祥太郎氏、山岡義生氏、中安顕氏、

内覧会の概要について報告と説明が行われ、承認された。また、施設の名称は、候補案を募り検討すること、銘板記名は、一口以上の寄附者の氏名を記名することが承認された。

2件目は、公益目的支出計画実施報告書の提出について説明が行われ、承認された。

議案の審議終了後、湊

第29回日本医学学会総会 2015 関西

【会頭】

井村 裕夫 (京都大学名誉教授、元京都大学総長)

【主催機関】

(1) 主 催：日本医学学会

(2) 実行機関：第29回日本医学学会総会 2015 関西

(3) 主務機関：

京都大学医学部、京都府立医科大学、大阪大学医学部、神戸大学医学部、滋賀医科大学、大阪市立大学医学部、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、関西医科大学、大阪医科大学、近畿大学医学部、兵庫医科大学、国立循環器病研究センター、京都府医師会、大阪府医師会、兵庫県医師会、滋賀県医師会、奈良県医師会、和歌山県医師会

【会期・会場】

(1) 学術講演

会期：2015年4月11日(土)～4月13日(月)

会場：国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、京都大学百周年時計台記念館、京都大学医学部芝蘭会館

(2) 学術展示

会期：2015年4月10日(金)～4月13日(月)

会場：京都市勧業館「みやこめっせ」、国立京都国際会館

(3) 公開展示

会期：2015年3月28日(土)～4月5日(日)

会場：神戸国際展示場

(4) 医学史展

会期：2015年2月11日(水・祝)～4月12日(日)

会場：京都大学総合博物館

【URL】

<http://isoukai2015.jp/>iPS細胞・再生医学研究会
取り組みを報告

110人参加

7月25日(木)に、京大病院iPS細胞・再生医学研究会を芝蘭会館にて開催しました。同研究会は、当院におけるiPS細胞、ES細胞及び体性幹細胞などを用いた再生医学研究の向上並びに成果の普及を図り、ひいては医療の発展に貢献することを目的として平成21年11月に発足したもので

です。第8回目となる今回の研究会では、学内外から110人余りの参加がありました。研究会では、三嶋理晃病院長の開会挨拶の後、山岸 幸子先生(アステラス製薬株式会社分子医学研究所)より「アステラス製薬におけるiPS細胞研究への取り組み」について、櫻井英俊先生(京

都大学iPS細胞研究所特定拠点講師)より「患者由来iPS細胞を用いた三好型ミオパチーの病態再現」について、井上 治久先生(京都大学iPS細胞研究所准教授)より「iPS細胞技術を用いた神経変性疾患の研究」について、井家 益和先生(株式会社ジヤパン・ティッシュ・エンジニアリング(J-TEC)製品開発部部長)より「ヒト細胞を用いた製品の基礎研究から再生医療の産業化に向けて」について、

一般講演が行われました。引き続き、岡野光夫先生(東京女子医科大学副学長・教授/先端生命科学研究所所長、日

本再生医療学会理事長)より「細胞シートとiPS細胞の融合への挑戦」について特別講演が行われました。

また、総会では学生代表が新鮮な発表をしてくれ、医学学会総会では4年に1回開催されるオリンピックにも似た大きな医学の祭典であり、医学の現状と課題を一般の人びとにも理解してもらう機会でもあります。準備はほぼ順調に進んでいます。多くのの方に参加していただくことを期待しています。この機会に芝蘭会総会を京都で開催していただくことを願っています。

とが決定したと湊会長より伺い、大変うれしく思っています。ぜひ多くの芝蘭会会員の皆さまが医学学会総会に参加され、学問の進歩と京都の行く春を楽しんでいただきたいと願っています。

議案(4)については、第29回日本医学学会総会(2015)への参加について、芝蘭会臨時総会開催のための具体的案を作成し、継続的に審議することと承認された。議案(5)については、平成25年度一般会計収支予算書の改訂について説明があり、審議の後、承認された。

議案(6)については、2件あり、1件目は、医学部記念講堂・歴史資料館の募金状況並びに平成25年6月1日に行われた

内覧会の概要について報告と説明が行われ、承認された。また、施設の名称は、候補案を募り検討すること、銘板記名は、一口以上の寄附者の氏名を記名することが承認された。

2件目は、公益目的支出計画実施報告書の提出について説明が行われ、承認された。

あいさつする三嶋病院長

特別講演する岡野先生



芝蘭会 総会・評議員会・理事会



活発に議論する芝蘭会総会・評議員会および理事会

平成25年6月15日(土)芝蘭会館別館に於いて芝蘭会総会・評議員会および理事会が開催された。

議案は、(1) 平成24年度事業報告及び収支決算並びに財産目録について、(2) 副会長、理事、評議員の選任について、(3) 副会長、理事及び常務理事の選任方法について、(4) 第29回医学学会総会(2015)への参加について、(5) 平成25年度一般会計収支予算書の改訂について、(6) その他についての6件で、議案(1)については、医学教育活動等への助成や学生の海外研修等への助成について、活発な議論の上、原案どおり承認された。

議案(2)については、理事の西 祥太郎氏、山岡義生氏、中安顕氏、

内覧会の概要について報告と説明が行われ、承認された。また、施設の名称は、候補案を募り検討すること、銘板記名は、一口以上の寄附者の氏名を記名することが承認された。

2件目は、公益目的支出計画実施報告書の提出について説明が行われ、承認された。

議案の審議終了後、湊

芝蘭会費納入は
自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引落とし」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にも繋がります。

ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

手続き等については、
芝蘭会事務局
(TEL 075-751-2713)
までお問い合わせください。

70回・2012(平成24)年版

芝蘭会会員名簿 刊行!

名簿作成にご協力いただき、ありがとうございました。

このたび平成24年12月に芝蘭会会員名簿を刊行いたしました。名簿作成にあたり、会員の皆さまから快く異動情報をお寄せいただき感謝申し上げます。会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問い合わせください。

- 会員名簿：A4判、890頁
- 会員頒布代：一部 5,250円(消費税を含む)
(但し、会費納入者に限る。その他は 10,500円)
- 送料：700円

支部だより

終始和やかな雰囲気の中、開かれた
阪神支部総会

前立腺がん、最新治療学ぶ



大血管合併症としての腎動脈狭窄の位置づけ」に関する研究の発表が行われ、簡単な糖尿病の紹介の後研究の方法、手順と結果をわかりやすく説明していただきました。結果、大血管合併症に関しては予測因子としてABIと頸動脈プラークで優位差が見られたことなどが判明したそうです。

【阪神】平成25年6月1日(土)、ホテルニューアルカイックにて芝蘭会阪神支部総会が開かれました。

総会ではまず綿谷茂樹先生の司会のもとに物故会員への黙祷が行われ、その後支部長である藤原久義先生のあいさつに続いて会計報告や監査報告などの報告が順次行われました。

続いて同会場で行われた阪神臨床医療懇話会では一般演題が3回、特別講演が2回行われ、大変興味深いさまざまな分野のお話を聞くことができました。

心血管系の発生・形態形成、分かりやすく

【大阪】平成25年6月1日(土)、ホテルグランヴィア大阪にて、平成25年度 芝蘭会大阪支部総会が行われました。

総会には続いて奈良県立医科大学先端医学研究機構循環器システム医科学研究室教授の中川修先生による、「心血管系の発生・形態形成に働くシグナル伝達機構」と題された学術講演が催されました。

【大阪】平成25年6月1日(土)、ホテルグランヴィア大阪にて、平成25年度 芝蘭会大阪支部総会が行われました。総会には孔雀の間で行われました。

二つ目の一般演題では「2型糖尿病患者での前立腺がんはその数こ

そ増加の一途をたどっているものの早期に発見できれば治療は意外に容易なため、PSA値による判断とグレイゾーンでの早期治療が大切なそうです。また治療法もこの10年で目覚ましい進化を遂げており、放射線療法では、高リスクでも使用可能な外照射法や低リスクでしか使用できないものの周囲の組織に与えるダメージがないため理想的な小線源療法が発達、また手術監視療法では内視鏡支援ロボット「ダ・ヴィンチ」が開発され、前立腺がんの治療は非常に安全なものとなりつつあるそうです。中でも「ダ・ヴィンチ」はその高解像度3D画像や自然な操作感によって出血量を今までよりはるかに少なく済ませられるそうです。

特別講演Ⅱでは「発熱をキーワードにした小児血液免疫疾患診療の最新動向」と題して自己炎症性疾患の概念とその代表例、そしてその診療に関する問題点や課題について、京都大学の平家俊男先生がわかりやすく解説していただきました。

盛り上がった岐阜支部総会



腎臓病治療、研究成果聞く

が検出されないという特徴をもつていて、FMFやTRAPS、CAPSなどが代表的な疾患とされるそうです。

診断のポイントとしては典型例をよく知り、疑わしい場合には遺伝子検査を行うことが大事であること、症例の集積が困難で治療の際に苦痛も大きいいため診断基盤の確立

【岐阜】平成25年6月16日(日)、岐阜県岐阜市にある岐阜会館にて、芝蘭会岐阜支部総会が行われました。

今回は講師として京都大学大学院医学研究科腎臓内科学柳田素子教授が招かれていらつしやいました。柳田先生は平成23年10月に教授に就任されましたが、分かりやすい講義で学生の間でも人気を集めておられます。

講演会の演題は「腎臓内科医はどこまで腎臓病を治せるのか」と題して、腎臓病を治すことはできませんが、腎臓病の病態を解明することによって治療の可能性を探ることができるとお話しくださいました。

精製、産生細胞の同定をしたのは日本人であることとはあまり知られていませんが、ぜひ知っておいてほしいとのことでした。腎性貧血では内因性のエリスロポエチン産生能が残っているかどうかの問題でしたが内因性のエリスロポエチン産生能が残っていると考えられる根拠を示されながら、腎性貧血の治療法や繊維化と腎性貧血との関係についてお話いただきました。

【岐阜】平成25年6月16日(日)、岐阜県岐阜市にある岐阜会館にて、芝蘭会岐阜支部総会が行われました。

今回は講師として京都大学大学院医学研究科腎臓内科学柳田素子教授が招かれていらつしやいました。柳田先生は平成23年10月に教授に就任されましたが、分かりやすい講義で学生の間でも人気を集めておられます。

講演会の演題は「腎臓内科医はどこまで腎臓病を治せるのか」と題して、腎臓病を治すことはできませんが、腎臓病の病態を解明することによって治療の可能性を探ることができるとお話しくださいました。

今回の「腎臓内科医はどこまで腎臓病を治せるのか」という演目で講演されましたが、柳田先生は直前まで臨床的な内容にするか、基礎研究的な内容にするか迷っておられたようで、その場の先生方の希望で研究内容インでのお話となりました。二通りのスライドを用意されていたこと、難しい研究内容を理路整然と分かりやすくお話された話術が圧巻でした。

勢ぞろいした大阪支部総会の出席者



たです。そして、講演の中心的な内容になっていたのが、Hrt転写調節因子ファミリーの話です。Hrt1、Hrt2、Hrt3の三種類あり、Hrt1は心臓と血管系、Hrt2は心臓と血管系に多く分布することでした。

【大阪】平成25年6月1日(土)、ホテルグランヴィア大阪にて、平成25年度 芝蘭会大阪支部総会が行われました。総会には孔雀の間で行われました。

【大阪】平成25年6月1日(土)、ホテルグランヴィア大阪にて、平成25年度 芝蘭会大阪支部総会が行われました。総会には孔雀の間で行われました。

【大阪】平成25年6月1日(土)、ホテルグランヴィア大阪にて、平成25年度 芝蘭会大阪支部総会が行われました。総会には孔雀の間で行われました。

【大阪】平成25年6月1日(土)、ホテルグランヴィア大阪にて、平成25年度 芝蘭会大阪支部総会が行われました。総会には孔雀の間で行われました。

【大阪】平成25年6月1日(土)、ホテルグランヴィア大阪にて、平成25年度 芝蘭会大阪支部総会が行われました。総会には孔雀の間で行われました。

支部だより

浜矩子教授講演、興味深く

【京都】平成25年度芝蘭会京都支部総会が平成25年7月7日（日）に京都大学医学部構内芝蘭会館稲盛ホールにて催されました。

総会では、まずは芝蘭会京都支部長である真鍋克次郎先生のごあいさつがあり、今回のような同窓会を開いて同窓意識を高めることの大切さを語られました。続く庶務報告では、30人の物故者に対して黙祷が捧げられました。

齊藤信雄先生と坂口佳司先生より平成24年度会務報告と平成25年度会務報告が、真鍋克次郎先生より平成24年度会計報告が行われ、馬場満男先生による監査報告にて承認されました。

芝蘭会事務局長の山田均氏より芝蘭会本部報告が行われました。平成24年10月より始められた京都大学医学部記念講堂・歴史資料館のための募金については、開始一年足らずで当初の目標額であった5千万円を達成致しましたが、予定通り二年間続行させていただくとの方針を表明されました。

芝蘭会館別館の宿泊施設については、従来の門限を撤廃し、また小児科患者の御家族に安価で提供することで施設の稼働率の向上を図っていくとの意思が述べられました。

次に真鍋克次郎先生より議事がおこなわれ、平成25年度の行事予定や予算についての報告がありました。

第2部として、同志社大学大学院ビジネス研究科浜矩子教授による特別講演が催されました。以下、ご講演の内容を紹介させていただきます。

「溝の鏡病」を患っているのは日本だけではなく、EU諸国や中国までもが自国の過去の繁栄が永遠に続いていくような幻想を抱いてしまっている。なぜ今世界中でこのような気運が高まっているのでしょうか。それは、ヒト・モノ・カネが容易に国境を越え、グローバル化が避けられない現社会の中、個々の国家の存在は当然守られなければならないかもしれませんが、そこでひとつの地球を多数の国々がどう共有するかという壮大な問題に直面し、逃避的思考に陥ってしまうからであると考えられます。

このような世界情勢では、恐れるべき二つの戦争があるといえます。一つ目は通貨戦争であり、その口火を切ったのはアベノミクスを推進する日本なのです。円安の進行を追求する日本の政策は、円を大暴落させる危険があるばかりでなく、ともすれば他国の成長機会を独り占めする「近隣窮乏化政策」ともなり得ます。そして日本ばかりでなく多数の国が通貨安を追求し続けることは、下り坂を共に転がり落ち続けるのと同じであり、

その意味で世界大恐慌の時代の繰り返しが懸念されているのです。

二つ目の戦争は通商戦争であり、こちらはTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）問題に端を発するものです。例外なき自由貿易を謳うTPPですが、TPPを結んだ国同士のための貿易を振興することは、その開いの外にいる国にとってはまさに貿易不自由化であり、

実は日本にとっても負の貿易転換効果をもたらす協定なのです。そんなTPPに別名を付けるのであれば、「地域限定排他貿易協定」であり、ポンド・ブロックやナチス経済圏などで各国が閉鎖的経済圏を設け、後の大戦を招いた1930年代を彷彿とさせる構造をとっています。そのような意味でTPPは、WTO（世界貿易機構）の掲げる自由・無差別・互惠の原則に反する極めて差別性の高い政策であり、国民国家の古い概念にとらわれた戦略と言えます。そしてこの二つの戦争はどちらも終わりなき消耗戦になってしまいうでしょう。これらの戦争を回避するにはどうすればいいのでしょうか。そこで述べられたのが、アダム・スミスの「国富論」を超えて、「僕富論（ぼくふろん）」から「君富論（きみふろん）」へと転換するという考えです。それはつまり、国産品愛用運動などに代表される自国の富さえ守ればいいといった「僕富論」よりも、互いの市場を差し出しあって他国の利益

を優先する「君富論」を中心に外交を行うべきであるということです。まさかそのようなことができるわけないと思うでしょうが、人間の歴史はその時代の人がまさかと思うようなことの連続で成り立っており、まさかは必ず起こるのです。

講演後は先生方から質問されて、より深みの増した講演会となりました。

続いて、芝蘭会館山内ホールにて、芝蘭会京都支部顧問の西祥太郎先生のご発声により懇親会が催されました。

芝蘭会京都支部副支部長の野口雅滋先生が司会された懇親会中には、久方ぶりに参加された先生方の自己紹介や近況報告がされました。先生方は、若い世代の先生方の集まりをもっと良くしたい、と口をそろえておっしゃってられました。多彩なご活動に身をおく先生方が多くおられ、京都大学は非常に個性的な先輩が多い大学であると感じました。

一年ぶりの懇親会は大いに盛り上がりでしたが、瞬く間に時間が過ぎ、惜しまれつつも総会はお開きとなりました。

入学して間もない私ですが、今回このような貴重な機会に参加させていただき深く感謝申し上げます。今後の芝蘭会京都支部の発展とより多くの芝蘭会会員の先生方のご参加を願って、芝蘭会京都支部総会の記事とさせていただきます。

（文責・1回生 朴剛史）

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	異動内容
H25.6.2	岡本 健	整形外科助教より同講師へ
H25.6.15	黒田 知宏	医療情報企画部准教授より同教授へ
H25.7.1	池田 昭夫	臨床神経学准教授より寄附講座（てんかん・運動異常生理学講座）特定教授へ
H25.7.1	松本 理器	臨床神経学講師より寄附講座（てんかん・運動異常生理学講座）特定准教授へ
H25.7.1	増田 智先	薬剤部准教授より九州大学病院教授・薬剤部長へ
H25.7.1	秋山 治彦	整形外科学准教授より岐阜大学教授へ
H25.7.1	倉本 恵梨子	高次脳形態学特定助教より川崎医科大学特定講師へ
H25.7.1	松岡 達	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点（AK）特定准教授より福井大学教授へ
H25.7.31	漆原 尚巳	医の倫理委員会事務局特定講師より慶應義塾大学准教授へ

発令年月日	氏 名	異動内容
H25.6.2	森田 智視	採用
H25.6.15	藤原 浩	辞任
H25.7.1	岡島 英明	採用
H25.7.1	佐藤 史顕	採用
H25.7.1	縣 保年	辞任
H25.7.1	石北 央	辞任
H25.7.1	奥野 浩行	辞任
H25.7.1	竹島 美幸	採用
H25.7.31	今野 恵里	辞任
H25.8.1	松村 謙臣	昇任

会 員 訃 報 （敬称略）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

大久保武男（昭16年12月卒）	平成25年3月5日	ご逝去	辻 第一（昭24年専卒）	平成25年1月4日	ご逝去	田中 昭治（昭30年卒）	平成24年12月30日	ご逝去
成田 至（昭17年卒）	平成25年6月5日	ご逝去	野呂 吉治（昭24年専卒）	平成24年5月28日	ご逝去	服部 龍夫（昭30年卒）	平成25年6月8日	ご逝去
河原 茂実（昭19年棄卒）	平成25年4月1日	ご逝去	河合 享三（昭25年専卒）	平成25年9月4日	ご逝去	広岡 仁夫（昭31年卒）	平成25年6月	ご逝去
蘇 鴻章（昭20年卒）	平成17年	ご逝去	高橋 操夫（昭25年専卒）	平成25年2月25日	ご逝去	都志見久令男（昭32年卒）	平成25年6月25日	ご逝去
溝渕 速（昭20年専卒）	平成25年1月29日	ご逝去	鳥塚 莞爾（昭26年卒）	平成25年7月27日	ご逝去	中保 俊彦（昭33年棄卒）	平成25年9月8日	ご逝去
山本 正勝（昭21年卒）	平成24年11月18日	ご逝去	菊池 厚（昭26年専卒）	平成25年4月2日	ご逝去	大津 英二（昭38年卒）	平成25年5月14日	ご逝去
大西 豊彦（昭22年卒）	平成25年2月10日	ご逝去	佐野 耕三（昭27年卒）	平成25年5月27日	ご逝去	中部 普行（昭39年卒）	平成25年2月27日	ご逝去
米谷 渌（昭22年卒）	平成25年6月13日	ご逝去	白石 英雄（昭27年卒）	平成25年7月23日	ご逝去	三井 博（昭39年卒）	平成25年1月29日	ご逝去
豊田 厚二（昭23年卒）	平成25年9月27日	ご逝去	永井 純太（昭27年卒）	平成25年1月30日	ご逝去	須藤 容章（昭40年卒）	平成25年7月22日	ご逝去
矢形 延寿（昭23年卒）	平成24年10月23日	ご逝去	間嶋 正徳（昭27年卒）	平成25年7月15日	ご逝去	三木毅一郎（昭48年卒）	平成24年8月24日	ご逝去
向谷 慈郎（昭24年卒）	平成14年1月5日	ご逝去	落合 久明（昭28年卒）	平成25年5月23日	ご逝去	中川 二郎（教室会員 内科2）	平成25年6月8日	ご逝去
近藤 基樹（昭24年専卒）	平成24年12月1日	ご逝去	安茂 寿夫（昭28年棄新卒）	平成25年5月5日	ご逝去	三林 英子（教室会員 産婦人科）	平成23年	ご逝去

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会でごめさせていただきます。芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。（FAX 075-752-4015）